

「まちづくりセンター10周年企画」
「まちセン御三家に聞きました！」

函館とともに歩んできた函館市地域交流まちづくりセンター。2007年4月開館以来、多くの方に支えられおかげさまで10周年を迎えることができました。

10周年を記念する企画として、函館の市民活動とまちづくりセンターにスポットをあて、3編構成にて、みなさんにご案内します。10年を振り返る過去編(前号)、函館の今、現在編、これからの函館、未来編(次号)を予定しています。



開館以来、10年まちづくりセンターを支えてきたスタッフ3人(丸藤競(センター長・写真中央)、横内輝美(左)、

澤田石久巳(右)に、聞きました。

「まちづくりセンターは日々変わる?」

丸藤 まちづくりセンターの機能として、当初と違うのは、移住の支援がはいってきたことと、福祉や介護予防とながってきたこと。

オープンしたころは、観光情報や観光案内は想定していました。移住や福祉、介護予防、防災などは、予測しなかったけど、現在は、活動の大きな柱になってますね。

澤田石 現代にあった部分でもって、基本はそのままあるんだけど、今現在どういうものが必要かということにそって、今動いているよね。福祉や移住、防災は、まちづくりの中には、かせないものですね。

横内 センターの利用の仕方も変わってきました。特に1階フロアの使われ方がね。

丸藤 1階で開催している水曜マルシエは、定着してきて、常連さんでもできました。本来喫茶が休みの時に、どのようにして、活気を出すか?ということとでスタートしました。水曜マルシエを始めたころは、市内であまりなかったのが、あっちこちで広がって、まちセンで出店してる人がほかでも出店して、地域に広がっていったというのは、すごくうれしいことですね。

澤田石 今でこそ当たり前になつてきましたけど、Wifiを館内で自由に使えるというのも早かったですね。

横内 ホテルとここぐらいのもので。

丸藤 そういう意味では時代の流れに、結構応じてきてますね。

澤田石 積み重なったものが、時代にあつて、福祉など、まちづくりと一緒になつて裾野が広がっていく。時代の流れとともに、どんなことがでてくるかわかんないから常にアンテナ伸ばしてなきゃだめだな。

横内 裾野を広げる手だてみたいのがここであつて、ここにくることで、情報を得ている。そういった意味では、情報源となつていくんだよね。なにかある?と訪ねてくる方やなにかしたい!という方も訪ねてきますね。

丸藤 マスコミの人もネタがないときにね。そういう意味では、ここにくれば何か面白い情報があるかもしれない。いろんな情報を発信してきたからかな。

横内 市民活動団体の人たちがここに入り込んでいて、そういう人たちとも触れ合えるというのが、いいところなんですかね。

「まちづくりセンター」

澤田石 発想が違うんだよね。させないことにしよう、これはこれでさせませんよ、といえればそれでいい、規則になつてしまうから。そうでなくて、うちの場合はそれをするためにはどうしたらいいかということをもっと考えながら進めていってる。そういうところがみなさんにうけたのかな。

横内 福祉の店どんぐり2は、当初なかった。福祉の事業所の人たちとつながりをもてたら、といつてね。3年目(2

010年2月)にできたね。

丸藤 店を出したいね、という最初の話し合いから1年以上かかりました。時間はかかったけど、できてよかったですよ。

横内 商品が売れるので、各施設の励みになっている。ここに来て、働きにでた子がいる。今度、就職することになりました、ってあいさつしてきてね。

澤田石 自分自身がここにくること一般の人たちと接することが励みになつて、俺もできるかなつていう感じになつて、社会復帰のきっかけとなつただね。自分で作った商品を販売するという実践の場があり、完全に開けたね。

「10年前の自分から現在の自分に」

- ・ いろんな出会いがたくさんあつて楽しそうですね。(丸藤)
- ・ 地域の人たちの活動にサポートできるかなあ?(横内)

・ 今日から伝統をつくりあげていく!(澤田石)

次号では、未来編を掲載予定です。お楽しみに。

「あとがき」

この10年、まちづくりセンターの役割が変化してきています。その都度、対応してきました。どうすれば、対応できるか今後みんな考えていきたいです。(聞き手 谷口真貴)